

二〇二五年 新年の挨拶

皆さん、新年明けましておめでとうございます。

高校3年の須田秀太郎と申します。本日は、新しい年の始まりにこの場でお話しする機会をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、二〇二五年という新しい年を迎え、私たちは驚くべき速度で進化を遂げるテクノロジーと共に生活しています。その中でも特に話題となっているのが、ChatGPTのような生成AIの発展です。このようなAIは、私たちの学び方や働き方、さらにはコミュニケーションの方法にさえ大きな影響を与えています。では、このような時代において、学校で外国語を学ぶ意義とは一体何なのでしょう。本日はこのテーマについてお話ししたいと思います。

私は高校2年生から高校3年生にかけ、フランスに2ヶ月間留学しました。その経験は、私にとってとても貴重なものでした。例えば、フランスで友人と一緒に街を散策している時、店員さんとの何気ない会話や地元の人たちの温かい歓迎を通じて、教科書では学べないリアルな文化に触れることができました。その時、私は言葉だけでなく、その背景にあ

る価値観や歴史を学び、初めて「外国語を学ぶ」ということの深い意義を実感しました。

一方で、AIの進化により、外国語の翻訳はかつてないほど便利になっています。私たちは、スマートフォン一つで世界中の人々とコミュニケーションをとることができるようになりました。しかし、AIがどれだけ進化しても、相手の感情や文化的背景を完全に理解することは難しいと言えるでしょう。直接的な対話を通じて築かれる信頼や共感、人間同士のつながりにおいて欠かせないものです。

外国語を学ぶことは、単に言葉を覚えることではありません。それは、自分とは異なる世界観を理解し、多様な人々と協力し合う力を育むことです。この力は、AIがいくら発展しても、人間だけが持つ価値のある能力だと私は信じています。

新しい年が始まった今だからこそ、私たちはAIと人間の共存について深く考える必要があります。そして、私たち自身が外国語学習を通じて、他者を理解し、世界とつながる力を磨いていきたいと願っています。

最後になりますが、この新しい一年が皆さんにとって素晴らしい挑戦と成長の年となることを祈りつつ、私のスピーチを終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

と、ここまでのスピーチを聞いて皆さんはどう感じたでしょうか。中身がなく理想論を薄くなぞったスピーチだと思ったでしょうか。あるいは、時代に合わせたいスピーチだったと思ったでしょうか。実は、ここまでのスピーチは全てChatGPTにより数秒間で作成されたものでした。

AI時代の外国語学習の意義について、言語の背景となる文化の理解という、ChatGPTの指摘は実を射ていると思います。そこで、人間の悪あがきとして、別の観点から私の思う言語学習の意義を述べさせていただきます。

私の考える、外国語を学ぶ意義は、他者を尊重する姿勢を学ぶことです。人は、言語を基盤として価値観を育みます。自分と異なる言葉を話す人は、それぞれ異なる価値観を持ち、考え方を持っています。グローバル化が進む中で、母語ではない言語を学んでその言語話者の価値観に

触れる経験は、それぞれの人々の価値観を尊重する姿勢につながります。仮にその言語を上のように流暢に話せなくとも、そのような姿勢を持つことが、今の時代に求められていることではないでしょうか。

我が校の三理想には、「世界に雄飛するにたえる人物」という言葉があります。世界に雄飛できる人材とは、他者の価値観を理解し、尊重できる人材のことではないでしょうか。武蔵には、英語の授業はもちろんのこと、第二外国語や国外研修制度など多様な世界に触れられる機会が多く用意されています。特に中学生の諸君は、これらの機会を積極的に活用してほしいと願っています。

結びに、この一年が語学などの勉強や部活など、皆さんのやりたいことに一生懸命に取り組める年となるよう祈っています。寒い日が続きますが、体調にはくれぐれもお気をつけください。最後までご清聴ありがとうございます。